吉祥果

円頓寺だより

令和５年
４月号
【吉祥果 390 号】

コロナウイルス感染者数も愛知県で二百人を切り、ようやく落ち着きを見せてきました。今回の春のお彼岸法要ではコロナ前の法要形式に戻して、と言っても皆さんにはマスク着用をお願いしての法要を行いました。三年ぶりの一堂に会しての法要が無事に行えて、安堵とともに、皆さんのご理解、ご協力の賜物と感謝申し上げます。コロナ感染の収束を祈り、次回の年中行事である鬼子母神様ご開帳法要にも、大勢の方がご参拝くださいますようお願い申し上げます。

さて、四月です。進学、就職、転勤、転職など、新たな環境で新たな生活が始まる方も大勢おいでしょう。そんな生活環境が変わった人、特に初めての一人暮らしを始めるという方は、希望とともに不安を抱えてのスタートとなっているのではないでしょうか？

そんな折に日蓮宗名古屋社会教化事業協会の「心の教育講座」で**『カルトから家族を守るためにーカルト問題の基本と実際をふまえてー』**という研修があったので行ってきました。講師は、公認心理士で日本脱カルト協会理事の平野学先生でした。

カルトとは元は「宗教儀礼」を意味する言葉だったのが、今では「悪い宗教団体」という意味で使われています。西田公昭氏はカルトとは『強固な信念を共有して、熱狂的に実践し、メンバーに人権侵害をする団体』と定義し、日本脱カルト協会は『特定の教祖や教義を熱狂的に信じる小集団。中でも、代表者または特定の主義主張に絶対的に服従するよう、メンバーやメンバー候補者の思考能力を停止や減衰させて、目的のためには違法行為も繰り返して行う集団を「破壊的カルト」と称している』と言っています。

そんなカルト集団は心のスキに入り込みます。大学生活に入ったばかりの新入生。まだ友達もできていないところに授業は選択制。「どんな授業を選んだらいいの？どんなサークルに入ろうか？」そこへ「この授業は単位を取りやすいよ」などと親切顔で声をかけ、近づいてきます。仲良くなって連れていかれたサークルが、サークルとは名ばかりのカルトの勉強会ということもあります。

では家族としては、どうすればカルトに入会という事態を防げるのでしょうか？講義では

①世の中の様々な情報に触れていること
②それについて家族内でも自由に語り合えていること
③いろいろな体験を持っていること

とのこと。若い人が新聞を読まないとか言いますが、情報のすべてが新聞から得られるものではありません。インターネットのニュースもあるので、若者が情報を得ていないわけではありません。しかし自分の好みのニュースばかり、気になる情報ばかり集めがちになります。だからこそ、世代の違う家族間で広く情報を共有することが大事だというのです。そして情報をもとに体験して、うまくいくことも、失敗することもあるでしょう。時には作りごとの偽情報だってあります。どれも貴重な経験です。そんな体験を通して、情報が真実か否かを見分ける能力が付きます。また様々な人との出合いで交友関係も広がります。しかし誰だって一人になることもあります。そんなスキをついて勧誘されます。

そんな時は情報収集。そしてどんな場合でも、簡単に個人情報を相手に渡さないこと。また誘いを断る勇気を持つことが肝心です。楽しいサークル活動を装い近づき、勉強会と称して洗脳するようなこともあります。

彼らは親元を離れた一人暮らしの人を狙っています。親切そうに近づき、悩みを聞き、個人情報を集めます。気が付けば仲間になっていることだってあります。カルトに入信すると帰省しても以前と違う行動をとるので、家族は異変を感じます。友人関係が変わったとか、何かの集会に出かけていくとか…。おかしいなと思ったら、行動をよくチェックをしてみることが大事です。そしてどこ団体か確認出来たら、

①その団体のホームページなどを検索して調べ、相手を知ること。
②その団体へ行くことになった経緯を知るために、入信に至るまでの心情・動機を振り返る作業をする。
③今、自分ができることを考える。

という作業をする。洗脳されていたり、邪魔されたりと簡単には脱会できないものですが、脱会者の体験を見聞きしたり、専門機関やカウンセリングを受けるなどの準備し続けることが大切だと言っていました。

いずれにせよ、何かしら心が満たされないため、誘いに乗って入信します。常に誰か相談にのったり、話を聞いてくれたりする人が身近にいれば、「その話はおかしいよ。そんなうまい話はないよ」とか、集会に足を運ぶことを止めてくれるはずです。その役割は家族であったり、友人だったりします。最近はカルトへの入信者の低年齢化が進んできているといいます。子供や孫をおかしな宗教やカルト団体から守れるのはまずは家族です。子供や孫の話をよく聞いてあげてください。さみしい、ツラいといった、そんな心が入信の出発点になることもあります。おかしな言動や行動がないか、常に温かく見守ってあげることが大事だと感じました。

街角で

…アンケートや募金、手相占いなどを装って近づいてきます。細かい質問をしても適切な答えが返ってこないときは要注意！
名前や電話番号などは絶対教えない！！

〈召し捕りの弁〉三十一

日蓮大聖人はご自身に及ぶ迫害への覚悟を決め、時の為政者、有力寺院にお手紙を送りましたが、何も沙汰はありませんでした。しかし鎌倉中で、日蓮は阿弥陀様、観音様を軽んじる悪僧だ。執権様は地獄に墜ちると言っている。日蓮を断罪せよと大騒ぎ。とうとう、文永八年九月十日、大聖人は問注所に呼ばれました。大聖人は

「今まで、諸宗の批判をしてきたが、これ日蓮の言葉ではございません。すべて仏様の御教えに照らし合わせて述べたこと。諸仏の本意を経典に尋ねると、法華経こそが大事の法門。これは『立正安国論』に詳しく述べておりますとおりでございます」

とはっきり断言されました。取り調べの官吏も黙り、事無きをえてお帰りになりました。

同十二日、夕刻、いつものように松葉ヶ谷の庵にてお説教の最中。外がにわかに騒がしくなって参りました。平頼綱が数百人の手下を連れだって庵を何重にも囲んでおります。

「やい日蓮、夜ごと日ごとに裏山にて、ご祈祷と称しては世の混乱を祈る大悪僧よ。龍の口にて頚をはねよとの厳命いただき、大老頼綱、召し捕りに参った。おとなしくお縄にかかれ」

と叫び、庵に入って参ります。大聖人はご宝前に奉安なされた御経巻を押し戴き、懐にお納め、頼綱に

「面白や、頼綱の物に狂いしをみよ。御身、天下の大老でありながら事の善悪邪正もわからぬか。日蓮を召し捕り、頚打てば、今に見よ、国内には同士討の戦いが起こり、外国、元からの侵略が起こるのは必定。その期に及んで後悔しても始まらぬぞ」

批判を受け黙っておられぬ頼綱。早く捕えよと指示します。手下の者ども、大聖人の襟元つかんで引きずり、懐より経巻を取り、投げ出し、もったいなくも経巻を引き裂き、鼻をかみ、首に巻き、胴に巻き、それのみならず、足で踏みつけました。中でも少輔房というものは中の一巻を取って、大聖人に眼前になすりつけ

「やいやい日蓮、この期に及んでもこの経に未練があるか。日頃の悪口雑言思い知ったか」

といって眉間めがけて打ちつけること三度。大聖人は少輔房の右腕をつかんで「日蓮とて凡夫。この腕をへし折ってやろう」と思ってその経巻を見れば、第五の巻。

「五の巻の提婆達多品は悪人成仏の教え。勧持品には末法にこの経を弘めるとき、大難が降りかかり杖で打たれるとある。今、日蓮を打ちたる経巻も第五の巻、不思議に教えと符合しておる。教えどおりならば法華経の広宣流布は間違いない。安心した。早く縄を打ちなされ」

と自ら手を後に回せば、お衣の上より縄を打たれ捕らえられました。大聖人は荒筵敷きの馬に乗せられ、鎌倉市中を引き回されて七里が浜へと連れられて行きました。

平和公園墓地改修工事
終了のお知らせ

円頓寺の墓地と隣の墓地との境界の塀に亀裂が入っていることがわかり、昨年、秋のお彼岸過ぎから、塀の作り直しと合わせて、境界近くの墓地整備を行ってきました。

具体的には、

・歴代住職のお墓を新たに合祀方式に変更

・歴代の住職夫人のお墓の移設

・永代供養塔をこちらへ移動し、階段を取って、お花入れを増設、墓誌を重ならないように配置し、平地でのお参りを可能に

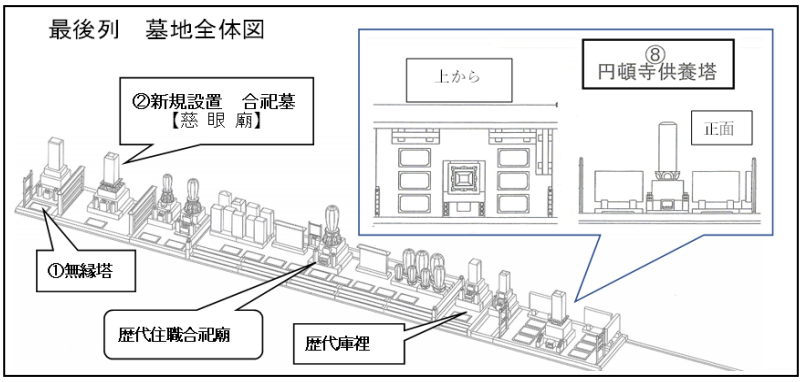
・新たな合祀供養塔②の増設

という円頓寺の墓地の改修工事が、春のお彼岸中に完成しました。

これに合わせて、三月二十六日の墓参日には完成の開眼法要を行いました。新たな合祀供養塔②は他宗の方も、他寺での葬儀の方も納骨可能です。したがって

・実家の墓じまいをしたけれど、遺骨の納骨先は円頓寺にある我が家のお墓の近くがいいなあとか、適当な受け入れ先がみつからないので探している

・身寄りのない親戚のお葬式はしたけれど、お骨はどこに納めよう



などという方も、お声掛けいただければ納骨できます。こちらへ納骨なされば、自分の先祖様のお参りも、実家や有縁の方のお参りも、同じ円頓寺の墓地内にて可能になります。これで埋葬されている方に、お参りする人がいなくてさみしいという思いをさせずに済みます。

以前からのご要望をふまえての改修工事が終わりました。檀家の皆さんにもご利用いただければと考えております。檀家の皆さんはもちろん、お困りの方の相談にも応じますので、ご遠慮なくお申し出ください。

四・五月の当山行事

※鬼子母神様ご祭礼

・四月十八日㈫

午後一時半より　読経

※鬼子母神様
ご開帳法要

・五月十八日㈭

《年に一度の本堂でのご開帳法要》

午後一時半より　読経

ご開帳、御祈祷、お加持を行います。

★年中祈願受付中

※ご参拝、ご祈願申し込みお待ちしています。

〒451-0042
名古屋市西区那古野１－１１－７
長久山　円頓寺
Tel　０５２（５５１）３７６８
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞhttp://endonji.web.fc2.com/
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽshiota.houyuu@gmail.com

円頓寺　検索

【E-mail はﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞを経由しても送れます】